



# Appleと教育

## 教育機関向けデータと プライバシーに関する概要

### 目次

[生徒のプライバシーに関するAppleの  
取り組み](#)

[Apple School Managerと管理対象  
Apple ID](#)

[スクールワーク](#)

[クラスルーム](#)

[管理対象Apple IDと共有iPad](#)

[iCloudとデータセキュリティ](#)

[CloudKitと他社製アプリケーション](#)

[位置情報サービスと紛失モード](#)

[解析情報](#)

[国際データ転送](#)

[プライバシーの概要 \(保護者向け\)](#)

[関連資料](#)

Appleは40年にわたり、私たちのテクノロジーを通じて、教師のみなさんの教え方と生徒の学び方が広がるよう支援してきました。パワフルなツールとアプリケーションを取り入れて、すべての生徒を学びに引き込み、クリエイティブな可能性を解き放つために役立てることが可能です。そしてAppleは、生徒が学習体験を通じて作成、保存、アクセスするデータを保護するためのセキュリティとプライバシーがどれだけ重要であるかも理解しています。

セキュリティとプライバシーは、Appleのハードウェア、ソフトウェア、サービスすべての設計の基礎となっています。Appleは、体験のあらゆる側面にセキュリティとプライバシー保護が組み込まれるよう、統合的なアプローチをとっており、その中で、教職員や生徒など、教育機関におけるすべてのユーザーのプライバシーとセキュリティを配慮しています。

Appleは、Apple School Manager、管理対象Apple ID、共有iPadなど、教育のための機能やサービスも設計、開発しています。これらの機能へも同様の統合的なアプローチをとり、さらに生徒や教育機関に特有のセキュリティとプライバシーのニーズを考慮して設計しています。

本概要では、管理対象Apple ID、関連するAppleの教育向け機能およびサービスにおいて、生徒のデータとプライバシーがどのように扱われているかを取り上げています。教育機関のみなさんは、生徒のデータの保護をAppleがどのように行なっているかを保護者の方々に説明するためにこの概要を使うことができます。

### 生徒のプライバシーに関するAppleの取り組み

Appleが広告やマーケティングに使用する目的で、生徒の情報を追跡、共有、販売することは決してありません。Eメールの内容やウェブの閲覧履歴に基づいて生徒のプロファイルを構築することはありません。また、教育向けサービスを提供する目的以外で生徒の個人情報を収集、使用、開示することはありません。生徒の個人情報を販売したり、生徒向けの広告を目的として開示したりすることはありません。

Appleでは、取り組みのさらなる証として、[Appleプライバシーポリシー](#)および[Apple School Manager契約](#)を作成し、ユーザーの情報を収集、使用、開示、転送、保存する方法を規定しています。また、Appleは[Student Privacy Pledge](#) (英語) に署名しています。

## Apple School Managerと管理対象Apple ID

Appleでは、あらゆる規模の学校および教育機関でのiPadやMacの導入を支えるサービスを提供しています。こうしたサービスは、教育機関と生徒のデータを導入前から導入後まで確実に保護するよう、セキュリティとプライバシーを念頭に設計されています。

Apple School Managerは、IT管理者が学校にiPadとMacを導入するために必要なすべてをそろえた、無料のウェブベースのサービスです。Apple School Managerを使うと、コンテンツの購入、モバイルデバイス管理(MDM)ソリューション内での自動デバイス登録の設定、生徒と教職員のアカウントの作成、スクールワークアプリケーションおよびクラスルームアプリケーション用のクラス名簿の設定、スクールワークの生徒の進捗を記録する機能の有効化、指導や学習のために使うアプリケーションとブックの管理などができます。

Apple School Managerの中心になる機能は、学校が管理する管理対象Apple IDの作成です。管理対象Apple IDを利用すると、学校側が必要とする管理機能を維持したまま、生徒は iCloud Drive、フォトライブラリ、バックアップ、スクールワークアプリケーション、共有iPadにアクセスすることができます。管理対象Apple IDは教育での使用のみを目的として設計されています。

生徒のデバイスを提供している学校において、管理対象Apple IDの使用を教育目的に限定できるよう、管理対象Apple IDでは一部の機能を無効にしています。生徒はApp Store、Appleブックストア、iTunes Storeで何も購入することはできません。また、Apple Pay、友達を探す、iPhoneを探す、iCloudメール、HomeKit、iCloudキーチェーンも無効になっています。FaceTimeとiMessageもデフォルトで無効になっていますが、管理者が有効に変更することができます。

Apple School Managerを使うと、以下の方法ですべての生徒や教職員のみさんの管理対象Apple IDを自動的に作成できます。

フェデレーション認証を使って、Apple School Managerを学校のMicrosoft Azure Active Directory (AD) に接続することができます。こうすると、ユーザーはActive Directoryのユーザー名とパスワードを使ってAppleのサービスにサインインできるようになります。Microsoft Azure ADはIDプロバイダ (IdP) です。ここでは、Apple School Managerで利用できるアカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。フェデレーション認証は、Security Assertion Markup Language (SAML) を使って、Apple School ManagerをMicrosoft Azure ADに接続します。データがAzure ADに書き込まれることはありません。

Student Information System (SIS)、または学校のディレクトリサービスから書き出したCSVファイルを使って、必要なデータのみを読み込むこともできます。ソースからの情報は読み取り専用にした上で、各ユーザーアカウントの作成に使用されます。管理対象Apple IDの識別子および関連付けられたパスワードなどの追加情報は、Apple School Managerのアカウント情報に追加され、SISのデータに書き込まれることはありません。

管理対象Apple IDは、Apple School Managerで手動で作成することもできます。

各ユーザーアカウントには以下の関連情報が含まれます。これらの情報はアカウントリスト内、またはアカウントを選択した時にも表示されます。

- 当該アカウントに固有の英数字のID
- 姓、ミドルネーム、名
- 学年 (指定された場合)
- 登録クラス
- Eメールアドレス (指定された場合)

- 役割
- 場所
- ソース
- 作成日
- 変更日

管理対象Apple IDは、教育機関が作成して割り当てるので、自治体内の全員に対して、パスワードのリセット、アカウントの検査、役割の定義を簡単に行うことができます。管理者がアカウントを検査したりパスワードをリセットしたりすると、Apple School Managerによってそのアクションが記録され、アクティビティの記録として残ります。

管理対象Apple IDのパスワードは、数字4桁のシンプルなものから、英数字を組み合わせた複雑なものまで、幅広いオプションをサポートしています。アカウントを最初に読み込んだ時や作成した時は、Apple School Managerによって仮パスワードが作成されます。この仮パスワードは、当該アカウントのユーザーが管理対象Apple IDではじめてサインインするためのものです。初回サインイン時にパスワードを変更する必要があります。仮パスワードから生徒が選択したパスワードに変更された後は、パスワードがApple School Managerに表示されることはありません。生徒は、個人所有のデバイスなど、学校が管理していないデバイスからサインインして、課題にアクセスすることもできます。この場合、管理対象Apple IDとパスワード、Apple School Managerで管理者から付与された6桁の確認コードを使用してサインインします。この6桁の確認コードの有効期間は1年間です。

管理対象Apple IDがフェデレーション認証で作成された場合、そのパスワードや関連するすべての設定（パスワードオプション、多要素認証、パスワードのリセットなど）は、Microsoft Azure Active Directoryのみによって管理されます。

学校が管理対象Apple IDを削除すると、そのアカウントに関連するすべての情報が30日以内にAppleのサーバから削除されます。また、学校がApple School Managerの利用を停止する場合、生徒のデータは180日以内にすべて削除されます。

## スクールワーク

スクールワークアプリケーションは、教師が教材を配布したり、アプリケーションやブック内の生徒の進捗状況をより詳しく把握することをサポートします。スクールワークは、管理者がApple School Managerで設定した生徒とクラス名簿の情報を使用します。学校は、生徒の進捗を記録するスクールワークの機能を有効にするかどうかをApple School Managerで選ぶことができます。この機能を有効にすると、ブックのどの章を読んでいるか、方程式の問題を終えたか、クイズに挑戦したか、など、学校が管理する環境で与えられたアクティビティの生徒の進捗状況を、教師とセキュアかつプライベートに共有できます。このようなデータを生かすと、教師だけでなく生徒自身も、与えられたアクティビティの進捗をよりよく理解することができます。そして、教師は必要に応じて、生徒に追加のアクティビティを用意したり、さらなるサポートを行うことができます。

スクールワークでアクティビティを割り当てると、対応アプリケーションが生成するデータの種類に応じて、進捗に関する次のような情報が教師に共有されます。

- 合計時間
- 開始時刻と終了時刻
- クイズのスコア

- 達成度
- 獲得した点数
- はい/いいえ、正/誤、完了/未完了といったバイナリ値

スクールワークは生徒のプライバシーを保護するよう設計されています。学校がApple School Managerで生徒の進捗を記録するスクールワークの機能を有効にしても、共有される進捗情報は、スクールワークアプリケーションを使った配布資料として教師が割り当てたアクティビティに関するもののみであり、さらに、学校が作成した管理対象Apple IDを生徒が指定デバイスで使用している時に限られます。教師が割り当てたものではないアクティビティに関する生徒の進捗情報は、共有も表示もされません。たとえば、教師がApple Booksの『ロミオとジュリエット』の序章を読むよう生徒たちに割り当てた際に、ある生徒が『華麗なるギャツビー』も読んでいる場合、生徒と教師が確認できるのは教師が割り当てた『ロミオとジュリエット』の進捗のみです。透明性を確保するために、進捗を報告する機能が有効になっている場合は、進捗情報が記録されていることが生徒に通知されます。

## クラスルーム

クラスルームアプリケーションは、教師が教室内の生徒のiPadを管理できるようにします。生徒のためにアプリケーションやリンク先を開くなど、授業中を通して生徒の学びを導くことが可能になります。教師はクラスの生徒全員と簡単に書類を送受信したり、生徒の画面を閲覧して作業状況を確認したりできます。

クラスルームで生徒のiPadを管理できるのは授業中のみで、授業が終わった後はデータは保存されません。教師と生徒が同一のWi-Fiネットワークにサインインできる距離にいて、クラスのセッションがアクティブになっている必要があります。教室にいない生徒のデバイスを教師が管理したり、閲覧したりすることはできません。透明性を確保するために、Screen Viewが有効で生徒の画面が閲覧できる状態になっている場合には、そのことがわかるように生徒の画面の上部に通知が表示されます。学校が教師が生徒の画面を閲覧できないようにしたい場合は、Screen Viewを無効にすることもできます。

## 管理対象Apple IDと共有iPad

生徒がiPadを共有で使用する場合のために、生徒がログインしてすばやく各自のアプリケーション、コンテンツ、設定にアクセスして利用できる機能を提供しています。この管理対象AppleIDを使うと、同じiPadを複数の生徒で共有しながら、個別の学習体験を確保できます。

生徒が管理対象AppleIDで共有iPadにサインインすると、AppleのIDサーバが管理対象Apple IDを認証します。生徒がそのデバイスをまだ使用したことがない場合は、その生徒用の新しいホームディレクトリとキーチェーンが作成されます。生徒のローカルアカウントが作成され、ロックが解除されると、デバイスは自動的にiCloudにサインインします。続いて、その生徒の設定が復元され、書類とデータがiCloudから同期されます。

生徒のセッションが有効でデバイスがオンラインになっている間は、作成または編集された書類とデータがiCloudに自動的に保存されます。さらに、バックグラウンドで同期する仕組みで、変更内容は生徒のサインアウト後、必ずiCloudに保存されます。

## iCloudとデータセキュリティ

生徒が書類を作成したり、授業の課題に取り組んだり、クラスのアクティビティに参加したりする時に重要なのは、データが安全に保存され、デバイスとiCloudの両方で常に保護されていることです。

iCloudを使用すると、ユーザーの書類、連絡先、メモ、ブックマーク、カレンダー、イベント、リマインダーは自動的にiCloudに保存されるので、iOSデバイスとMac、およびMacまたはWindowsパソコンのウェブブラウザから使用する*iCloud.com*でそれらの情報にアクセスできます。管理対象Apple IDがあれば、こうしたサービスを200GBの無料のiCloudストレージと共にデフォルトで利用できます。ユーザーがiCloudにサインインすると、iCloud Driveへのアクセスがアプリケーションに許可されます。ユーザーは、「設定」の「iCloud」で各アプリケーションのアクセス権を管理できます。

iCloudは業界標準のセキュリティ対策に従って構築されており、データ保護のための厳格なポリシーを採用しています。iCloudでは、ユーザーのデータを保護するために、インターネット経由で送信する際にはデータの暗号化、サーバに保管しておく間は暗号化形式での保存、認証にはセキュアトークンの使用を徹底しています。このように、生徒のデータはデバイスに送信されている時もiCloudに保管されている時も不正アクセスから保護されます。iCloudは、128ビット以上のAES暗号化を採用しています。これは、大手金融機関で使われているものと同じレベルのセキュリティです。また、暗号鍵を第三者に提供することは決してありません。Appleは、暗号鍵を自社のデータセンターで保持します。また、生徒のパスワードと資格情報は、Appleが読んだりアクセスしたりできない方法でiCloudに保存されます。

Appleは、ISO 27001およびISO 27018認証を取得しています。これは、パブリッククラウド環境で個人情報を保護する対策を講じた情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を実装済みであることを実証するものです。AppleがISO規格に準拠していることは、英国規格協会により認定されています。[ISO 27001](#)および[ISO 27018](#) 準拠の認定書は英国規格協会のウェブサイトでご覧いただけます。

詳細は「[iCloudのセキュリティの概要](#)」をご覧ください。

## CloudKitと他社製アプリケーション

他社製アプリケーションは、現代の学習環境において不可欠な要素です。生徒が他社製アプリケーションを使う場合でも、データの保存や取得を同様にシームレスに体験できるように、AppleはCloudKitを開発しました。CloudKitは、他社の開発者がデータをiCloudに保存して同期するためのフレームワークです。

CloudKitを使用するアプリケーションでは、生徒は管理対象Apple IDで自動的にサインインできます。つまり、新たにアカウントを作成したり、追加の個人情報を提供する必要はありません。新しいユーザー名やパスワードを覚える必要なく、アプリケーションにある最新情報にいつでもアクセスできます。開発者がアクセスできるのはユーザー固有の識別子だけで、生徒の管理対象Apple IDにはアクセスできません。

開発者がCloudKitを使用しているかどうかにかかわらず、他社製アプリケーションは生徒に関するデータを収集している可能性があることを認識することが重要です。他社製アプリケーションを使用する場合、学校には適用されるすべての法令を遵守する責任があります。学校は、他社製アプリケーションの使用条件、ポリシー、慣行を確認し、生徒から収集するデータの種類、収集したデータの使用方法、保護者の同意が必要かどうかについて理解する必要があります。

App Storeでは、アプリケーション開発者に、ユーザーのプライバシーとセキュリティを保護する目的で作成された明確なガイドラインへの同意を要求しています。スクールワークアプリケーションで生徒の進捗を記録するためのAppleのフレームワークはClassKitと呼ばれ、これを採用するすべての開発者に対して追加要件を課しています。ClassKitを採用する開発者は、App Storeでアプリケーションを公開する場合のAppleの標準的な要件に加えて、ClassKitの使用を教育向けサービスの提供目的に限るという要件に準拠する必要があります。アプリケーション内で行動ターゲティング広告を表示することは禁じられており、すべてのデータの使用には、適切なプライバシーポリシーを明らかにする必要があります。

Appleのガイドラインに違反するアプリケーションが見つかった場合、開発者はその問題に対処しなければなりません。対処がなされない場合、そのアプリケーションはApp Storeから削除されます。

## 位置情報サービスと紛失モード

生徒がデバイスでアプリケーションやサービスを使用していると、そのアプリケーションやアプリケーション内の操作に応じて、位置情報サービスを有効にするよう求められることがあります。Appleは、位置情報データの管理方法やアプリケーションおよびクラウドサービスとのデータの共有方法について、ユーザーが細かく設定できるようにしています。デフォルトでは位置情報サービスはオフになっていますが、学校が許可する場合は、生徒がオンに変更できます。

マップ、天気、カメラなど、位置情報を活用する内蔵アプリケーションでは、位置を示すデータの収集と使用にあたり許可が必要になっています。Appleが収集する位置情報データは、生徒を個人的に特定する形で収集されることはありません。学校が許可したその他のアプリケーションも、位置情報にアクセスする場合には許可を求める必要があります。生徒は、他のすべてのお客様と同様に、位置情報サービスの利用を求めるアプリケーションごとにアクセスを許可したり無効にしたりすることができます。

許可の設定は、アプリケーションが要求する位置情報の用途に応じて、許可しない、使用中のみ許可、常に許可のいずれかに設定できます。アクセスを許可しないと選択した場合も、「設定」からいつでも変更することができます。また、常に位置情報を使用する許可を得たアプリケーションがバックグラウンドモードで位置情報を利用する場合、使用を許可していることの再確認がユーザーに促され、必要に応じてアプリケーションへの許可を変更できます。アプリケーションが位置情報サービスを利用している場合、メニューバーに矢印のアイコンが表示されます。

ユーザーの位置情報は、Appleの機能やサービスを通して、いつも学校に提供されるというわけではありません。しかし、紛失や盗難に遭ったデバイスを学校が回収する時には位置情報サービスを利用できます。学校のデバイスであれば、MDM管理者がリモートから紛失モードを有効にできます。紛失モードが有効になると、現在のユーザーはログアウトされ、デバイスのロックを解除できなくなります。画面には、デバイスを見つけた人が連絡すべき電話番号など、管理者がカスタマイズできるメッセージが表示されます。デバイスが紛失モードになると、管理者はデバイスに対して現在の位置情報をMDMサーバに送信するようリクエストできます。管理者がデバイスの紛失モードをオフにした場合もデバイスの位置情報が送信され、ユーザーにはこのアクションが通知されます。

## 解析情報

Appleの製品とサービスの品質向上に関して学校および生徒のみなさんからご協力をいただける場合は、みなさんが解析プログラムを有効にすることで、デバイスとアプリケーションに関する情報を個人を特定できない形でAppleに送信できます。

解析プログラムを有効にするには、みなさんからの明示的な同意が必要です。ユーザーは送信したデータをデバイス上で確認することができ、いつでも「設定」からデータ送信を停止することができます。共有iPadを導入している場合は、学校が機能制限を設定することで、解析データの送信を無効にすることができます。

また、iOSはデバイスの問題のデバッグやトラブルシューティングに役立つ高度な診断機能も搭載しています。これらの診断機能は、追加ツールや明示的な同意を得ることなしに、Appleにデータを送信することは一切ありません。

## 国際データ転送

Appleは、学習に最適なツールを教師のみなさんが教室で利用できるように、世界中の学校と協力しています。また、Appleのサービスの使用をサポートするために、データ処理要件を確実に満たすよう監督機関とも協力しています。

Apple School Manager、管理対象Apple ID、iCloudを使用する場合、個人データが国外に保管されることがあります。保管場所にかかわらず、データの保管には共通の厳格な標準と要件が適用されます。

欧州経済領域またはスイスから米国に転送された個人データには、欧州委員会が承認したモデル契約条項(Model Contractual Clauses)またはSwiss Transborder Data Flow Agreement、もしくはApple Inc.が認定を受けることになっているいずれかの有効なPrivacy Shieldの認定プログラムが適用されます。モデル契約条項とSwiss Transborder Data Flow AgreementはApple School Manager契約に追記されています。

## プライバシーの概要(保護者向け)

生徒の情報がどのように利用されているかを理解するためには、透明性が重要です。保護者からのよくある質問への対応については、「[保護者のみなさんのためのプライバシーに関する概要](#)」を参照してください。この資料では、Appleの教育向けサービスとアプリケーションを学校が利用する際に、生徒の情報がどのように収集、使用、保存されるかを取り上げています。学校コミュニティのみなさんへの説明にご利用ください。

## 関連資料

学校と生徒からの信頼は、Appleにとって何よりも重要です。このため、生徒のプライバシーを尊重し、強力な暗号化と、すべてのデータの取り扱いを規定した厳格なポリシーの運用によってプライバシーを保護しています。

詳細については、以下の関連資料とウェブページを参照してください。また、プライバシーについて質問がある場合は、[www.apple.com/jp/privacy/contact/](https://www.apple.com/jp/privacy/contact/)から直接お問い合わせください。

- 教育向けApple製品のプライバシーとセキュリティ：  
<https://support.apple.com/ja-jp/HT208525>
- 保護者のみなさんのためのプライバシーに関する概要：  
[https://www.apple.com/jp/education/docs/Privacy\\_Overview\\_for\\_Parents.pdf](https://www.apple.com/jp/education/docs/Privacy_Overview_for_Parents.pdf)
- Appleと教育、ITと導入：  
<https://www.apple.com/jp/education/it/>
- Apple School Manager契約：  
<https://www.apple.com/legal/education/apple-school-manager/ASM-JP-JP.pdf>
- Apple School Managerユーザガイド：  
<https://support.apple.com/ja-jp/guide/apple-school-manager/>
- 教育用導入ガイド：  
<https://support.apple.com/ja-jp/guide/deployment-education/>
- Appleプラットフォームのセキュリティ：  
<https://support.apple.com/ja-jp/guide/security/>
- プライバシーに関するAppleの取り組み：  
<https://www.apple.com/jp/privacy/>



© 2021 Apple Inc. All rights reserved. Apple, Appleのロゴ, Apple Pay, FaceTime, iMessage, iPad, iPhone, Macは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。HomeKitはApple Inc.の商標です。App Store, CloudKit, iCloud, iCloud Drive, iCloud Keychain, iTunes Storeは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.のサービスマークです。iOSは米国および他の国におけるCiscoの商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。この資料に記載されているその他の製品名および社名は、各社の商標である場合があります。製品仕様は予告なく変更される場合があります。この資料は情報提供のみを目的として提供されます。Appleはこの資料の使用に関する一切の責任を負いません。2021年7月